鹿児島の自然だより　第 212 号

令和５年 12 月１日　鹿児島県立博物館発行
脊椎動物担当　上舞 哲也

鹿児島の動物 61

奄美の森にすむ大型のカエル

奄美大島と徳之島の中央部には，常緑広葉樹の森林が広がっています。温暖で湿潤な環境下で成立したこの森は，希少種を含む多くの固有種の生息地となっており，生物多様性を保全する上で重要な場所です。

今回は，この森を代表する動物といっても過言ではない大型カエル３種を紹介したいと思います。

アマミイシカワガエル　（体長９～12cm）

「日本で最も美しいカエル」と表現されるカエルで，奄美大島の固有種です。奄美大島の東北部，中・西南部の自然林に囲まれた場所に分布し，山間部を流れる渓流に多くみられます。初春から春の繁殖期には，岩の隙間などで雄が「クォッ」と鳴き交わす様子を観察することができます。

オットンガエル　（体長 10～14cm）

「オットン」とは，奄美のことばで「大きい」という意味ですが，その名のとおり，奄美で一番大きなカエルです。奄美大島と加計呂麻島にのみ分布する固有種で，自然林や回復の進んだ二次林内で多くみられます。カエルの前肢は４本指が一般的ですが，このカエルは，前肢に５本目の指があるのが特徴で，５本目の指からは，鋭いトゲ状の骨が飛び出します。これはオス間の争いや防御のために使用されていると考えられています。

アマミハナサキガエル（体長6～10cm）

鼻先がとがったスリムな体型のカエルで，後肢が長く，大きくジャンプすることができます。背中の色が写真のよう緑色のものと，茶色のものの大きく２パターンが知られていますが，茶色と緑色が混在するものもあり，個体により様々です。森林性の大型ガエルの中でこの種のみ奄美大島，徳之島に分布しています。

徳之島のアマミハナサキガエルは大きい？

徳之島のアマミハナサキガエルは奄美大島のものに比べ，やや大型であることは，以前から研究者や愛好者の間では知られていました。2019 年に小峰らのグループにより，体長に関して，徳之島産の方が 13mm 程度長いことが統計的に示されました。体長が６～10cm であることを考えるとかなりの違いです。

では，なぜ徳之島産は，大型化したのでしょうか。小峰らのグループは，徳之島の集団は，競争種オットンガエルが不在で，食物をめぐる競争がなかったことが関係していると推察しています。

「競争種のいる，いない」といった各島ごとの生態系のあり方が，「体長の大型化」といった個体の形質の変化を生んでいる 1 つの事例として捉えることができますが，このような種分化や進化の過程を実際にみることができることこそが，奄美の森の奥深さであるように感じます。